

同朋社会をめざす全国集会ご案内

加藤周一さんは最晩年の著書『日本文化における時間と空間』で、「今、ここ」を生きる、いいかえれば「今、ここ」だけにこだわって生きる、日本文化の特質を提起されました。

昨年末の衆議院選挙での結果は、まさにこの「今、ここ」主義の日本文化の顕著な表現であったといえます。福島原発事故で、あれほど脱原発と言っていた日本の多くの人々が、近い未来のことさえ忘れたふりをして、「今、ここ」の不安に耐えられないかのように、「今、ここ、そして私だけ」という選択をしたかのように思われます。

親鸞は『教行信証』の最後を『安楽集』と『華嚴経』の引用で結んでいます。これはいわば、「今、ここ」主義の克服こそを課題にしたということをあらわしています。蓮如はそのことを「後生の一大事をこころにかけて」と表現しています。教如もまた、そのことを課題として東本願寺の分立に至ったのではないのでしょうか。

今、私たちは親鸞、蓮如、教如の課題、日本で浄土を本国として生きるとはどういうことなのか、私たちの「念仏に目覚めた信心」そしてその具体的な教団としてのかたちが問われていると考えています。そこで私たちは、皆様に呼びかけて、別紙のとおり「同朋社会をめざす全国集会」を開催しようと計画させていただきました。

皆様と共に、藤場俊基さんからの提起「教学の実践としての教団のかたち」をうけて「真宗大谷派」という教団の現代の課題を明らかにしていきたいと思えます。皆様の参加を心からお待ちしています。

2013年2月1日

真宗大谷派宗議会 「同朋社会をめざす会」議員団一同